

専任教員の教育・研究業績

所属 体育学部	職名 教授	氏名 伊原久美子	大学院における研究 指導担当資格の有無	有	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
(学部) レジャー・レクリエーション概論、レクリエーション I、スポーツプログラム開発論、スポーツマネジメント実践論、インターンシップB、キャンプ実習A、海洋スポーツキャンプ実習、スキー実習、野外活動基礎実習	2009年4月～現在	授業は、学生が主体的に学べる工夫を行い、いずれの授業も学内平均よりも高い評価を得ている。			
(大学院) 冒険教育論特論、冒険教育論特論演習	2014年4月～現在				
2 作成した教科書、教材、参考書					
野外教育学研究法(共著)	2018年1月10日	野外教育の研究法に関する著書を共著として出版した。			
大阪体育大学教員免許更新講習会テキスト	2021年11月30日	「レクリエーション・野外活動」を担当。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
日本野外教育学会、日本キャンプミーティング、関西野外活動ミーティング等	2009年4月～現在	野外教育の教育実践に関する発表を行った。			
第14回SMT指導士会関西支部研修会	2019年11月2日	「スポーツ現場における冒険教育の可能性」の講演を行った。			
全国YMCAウエルネス担当者研修会	2020年11月8日	「ウエルネス事業の有効性とは」の講演を行った。			
4 その他教育活動上特記すべき事項					
大阪体育大学社会貢献センター、熊取町、地域スポーツクラブ等における野外活動事業	2009年4月～現在	野外活動を用いた教育事業の企画、運営			
和歌山県青少年育成協会の事業の企画・実践	2013年4月～現在	和歌山県の青少年を対象とした野外活動を用いたリーダー養成研修会			
II 研究活動					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
4.5代表的な研究の解説/野外教育学研究法	日本野外教育学会編集	132頁～143頁	杏林書院	東京	平成30年1月
大阪体育大学教員免許更新講習会テキスト	大阪体育大学	153頁～161頁	大阪体育大学教職支援センター	大阪	令和元年12月
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
大学運動部に対するASEプログラムが集団凝集性に及ぼす影響—新入生と在学生の比較から—	◎徳田真彦、伊原久美子、他5名	キャンプ研究 (研究論文)	第21巻	15頁～30頁	平成30年2月
大学女子バスケットボール部を対象としたAction Socialization Experiencesプログラムが集団凝集性に及ぼす影響	◎伊原久美子 村上なおみ 高橋宏斗	大阪体育大学紀要 (実践論文)	第50巻	1頁～14頁	平成31年3月
大阪府課程認定校レクリエーション交流大会参加学生におけるソーシャル・スキルとソーシャル・サポートに関する研究	◎高山昌子, 新野弘美, 玉井久美代, 伊原久美子	Leisure & Recreation (自由時間研究)	第44巻1号	64頁～72頁	令和元年10月
レクリエーション活動を提供する学生の自己効力感とソーシャル・サポートに関する研究—自由記述の分析からみる学生の学びについて—	◎高山昌子, 新野弘美, 玉井久美代, 伊原久美子	Leisure & Recreation (自由時間研究)	第45巻1号	12頁～25頁	令和2年10月
Action Socialization Experienceを体験した参加者が得た気づきの抽出	◎田淵洋勝、伊原久美子、高橋宏斗	野外教育研究 (研究資料)	第23巻第2号	15頁～25頁	令和2年3月
保護者から見た子どもの組織キャンプへの参加と非参加の理由—大阪市I市での事例—	◎矢野達也、伊原久美子、高橋宏斗	大阪体育大学紀要 (資料論文)	第51巻	9頁～24頁	令和2年3月
大学生キャンプカウンセラーの活動継続の動機に関する研究	◎今村樹、伊原久美子、矢野達也	大阪体育大学紀要 (資料論文)	第52巻	47頁～59頁	令和3年3月
大学生のキャンプ指導経験量がヒューマンコミュニティ創成マインドに及ぼす影響	◎伊原久美子	キャンプ研究 (研究論文)	第25巻	25頁～34頁	令和4年1月
総説					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月

Ⅲ 加入学会および社会における活動				
期 間		内 容		
加入学会				
平成10年6月～現在		日本野外教育学会		
平成12年4月～現在		日本体育学会		
社会的活動				
平成22年4月～現在		大阪府レクリエーション協会課程認定校連絡会 幹事		
平成22年4月～現在		大阪府キャンプ協会専門委員 理事（2020年度～現在）		
平成25年4月～現在		兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会委員		
平成29年7月～現在		永楽ゆめの森公園及び熊取永楽墓苑指定管理者選定委員会委員長		
平成28年6月～現在		日本野外教育学会 理事		
平成30年4月～現在		独立行政法人国立青少年教育振興機構国立曾爾少年自然の家 施設業務運営委員会企画評価部会委員		
平成30年5月～現在		大阪体育学会 理事		
平成30年6月～現在		枚方市スポーツ推進審議会委員		
令和3年4月～現在		公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会 理事		
令和3年4月～現在		文部科学省総合教育政策局地域学習推進課の体験活動関連事業に係る技術審査委員会技術審査専門員		
令和3年6月～現在		大阪府青少年活動財団 理事		
令和4年5月～現在		特定非営利活動法人ナック 理事		
Ⅳ 管理活動				
期 間		内 容		
委員会活動				
2020年度		【学部】キャリア支援委員会、広報委員会、社会貢献センター委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、研究委員会、図書館委員会 【大学院】広報委員会		
2021年度		【学部】キャリア支援委員会、社会貢献センター委員会、カリキュラムタスクフォース、カリキュラム委員会、FD委員会 【大学院】入試委員会		
2022年度		【学部】キャリア支援委員会、社会貢献センター委員会、カリキュラム委員会、FD委員会 【大学院】入試委員会		
特別プロジェクト活動				
Ⅴ クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	野外活動部	2. 役職	2009年～監督	3. 部員数 20人
4. 現場指導の頻度	④ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：5回	延べ日数：25日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	① ①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）				
開催期間	大会名	成 績	場 所	
Ⅵ 賞罰（職務に関する賞罰）				
年 月	受賞等機関名	内 容		備 考
2011年	野外教育学会	日本野外教育学会論文奨励賞		